

浙江省企業家協会幹部との懇談概要

日時：平成30年1月31日 15:30～17:00

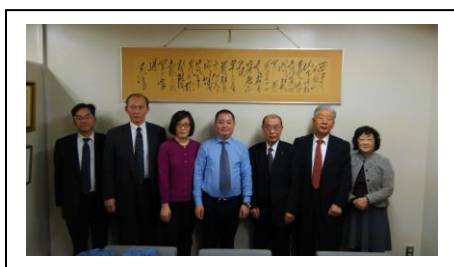
場所：静岡県日中友好協議会 会議室

参加：陳偉（浙江省企業家協会副秘書長）、邵萍（浙江省企業家協会幹事）

静岡県日中友好協議会 高林事務局長、平野常務理事

日本技術士会静岡県支部 長嶋支部長、宮野会員、山之上 以上7名

内容：工業系企業に対する技術指導の可能性について



冒頭、陳偉氏から工業系企業に不足する人材についての説明を受け、長嶋支部長から静岡県支部の現状を会員が300人超有していること、特徴として技術分野が21部門にわたることを説明した。会員構成では、建設系の会員が多数占めていることも付け加えた。

陳偉氏は、具体的には機械とくには自動車部品メーカーへの指導、機械や污水处理設備など設備関係に人材が不足することを強調。管理面において短期から中長期にかけて専門家の指導を望んでいる。

この種の専門家である宮野会員からは、著書で「3H（初めて、変更、久しぶり）の理論と実践」の概略を説明された。作業が定常時というより非定常な状態において品質不良や災害を誘発させることに3Hはとくに効果があると。ほかにも日本の製造技術の変遷を手作りの労働から省力化の例として3Dプリンターによる物づくりを紹介された。

浙江省企業への技術指導の可能性には、その人づくりがキーワードのようだ。日本の企業においても経営理念に人づくりが大いに関与すること、トラブル発生には人が絡む、さらに労働災害の原因にもなることは肝に銘じてきた。

日本は、明治以降、生産第一から安全第一が経営目標のトップになった歴史があるが、陳偉氏の発言では、未だに生産至上主義という。生産や品質管理は安全管理とともに一体物であり、この包括的な指導こそが一番必要かもしれない。

別枠で、建設業においてもヒヤリングしたが詳しくはわからなかった。建設関係者（企業、役所など）にも機会をつくり施工や安全管理などの分野においても調査診断の枠が広がる可能性はあると思われる。 文責：山之上 誠